学校番号	2101

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	全年次 数学Ⅰ（3 単位）履修済後
使用教科書	「最新　数学Ｂ」（数研出版）						
副教材等	「３ＲＯＵＮＤ　数学Ⅱ＋Ｂ」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
数列や統計的な推測について、概念を理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ることを目標とする。
【思考力、判断力、表現力等】
数列や統計的な推測について、事象を数学的に考察する能力を培うことを目標とする。
【学びに向かう力、人間性等】
数列や統計的な推測について、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を活用する態度を育てることを目標とする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学的活動を通して、数列や統計的な推測といった内容において問題の解法をしっかり学び、それらを用いて数学と社会生活の関りについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知 (a)	思 (b)	主 (c)
前半	数列	第1節　数列とその和 数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 和の記号Σ 自然数の 2 乗の和 いろいろな数列の和 階差数列	a:いろいろな数列を理解する。和の記号Σを適切に用いて計算できる。 b:初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 c:和を工夫して求める方法に興味をもち、公式を導こうとする意欲がある。$f(k+1)-f(k)$を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。	プリント・小テスト	プリント・小テスト	授業態度
		第2節　漸化式と数学的帰納法 漸化式と一般項 数学的帰納法	a:漸化式と一般項の関係を理解する。数学的帰納法による証明ができる。 b:与えられた条件から数列の一般項を特定する。 c:数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	プリント・小テスト	プリント・小テスト	授業態度
後半	統計的な推測	第1節　確率分布 確率変数と確率分布 確率変数の期待値 分散と標準偏差 二項分布 二項分布と期待値、分散、標準偏差 連続型確率変数 正規分布 二項分布の正規分布による近似	a:確率変数の期待値・分散・標準偏差を求める。標準正規分布表を用いて、標準正規分布に関する確率の計算ができる。 b:正規分布の特徴を理解し、さまざまな視点からとらえられる。 c:様々な問題に意欲的に取り組む。	プリント・小テスト	プリント・小テスト	授業態度
		第2節　統計的な推測 母集団と標本 標本平均の分布 母平均の推定 母比率の推定 仮説検定	a:母平均と母標準偏差がわかれば、標本平均の値がどのくらいの確率で現れるか推測できることを理解している。信頼区間の考え方を用いて、母平均や母比率の推定ができる。仮説検定の考え方を用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 b:母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定や信頼区間・仮説検定の考え方がわかる。 c:解答方法を確認する。	プリント・小テスト	プリント・小テスト	授業態度

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度